

デートDVと友だちトラブルは似ているかも？

去年の12月19日に、全校生徒を対象に、一般社団法人 エープラス 吉祥眞佐緒先生による「～人と人とのよりよい関係について(デートDV編)～」という講演会が行われました。デートDVというのは、交際関係(つきあっている)の二人の間で起きる、「暴力によって相手を思いどおりにする行為」のことを言います。詳しい内容については、12月号のほげんだよりでも紹介しましたね。この講演会の感想をいくつか紹介します。(内容は一部変えてあります)



- ・勝手にスマホを見られる
- ・すぐに電話に出ないと怒られる
- ・連絡先を勝手に消される
- ・位置情報アプリを入れさせられる



- ・暴言を吐かれる
- ・いつ怒るか分からないのでいつも顔色を見ている
- ・無視される



- ・許可なく体にさわられる
- ・はだかの写真や動画を撮られる
- ・無理やり性行為をされる
- ・避妊をしないで性行為をされる

「4人に1人デートDVが行われていると聞いて驚いた」「DVは殴ることだけでなく、暴言を吐いたり許可なく性行為をすることなども入るということを知ることができた。」「自分は加害者、被害者にならないよう気をつけたい」「紅茶の例がわかりやすかった。」「デートDVは絶対にやってはいけないという事がわかった。また相手の気持ちを考えて付き合ったりすることが大切だと思った」「自分が知らないだけで、近くに被害を受けている人がいるのかもしれないと思った」



- ・他の人と仲良くすると怒られる
- ・他の人と遊ばない
- ・部活をやめさせられる



- ・高価なプレゼントを買わされる
- ・デート代をいつも払わせられる
- ・アルバイトをやめさせられる



- ・なぐられる けられる
- ・物を投げつけられる
- ・目の前で物を壊される

さて、今回のデートDV防止講演会の題名は「人と人とのよりよい関係について(デートDV編)」でした。つまり、今回の講演会で聞いた話は、恋人同士にかかわらず「人間関係」に大切なことがたくさんあったのです。実際上尾橋高校では「デートDV」の相談よりも「友だちトラブル」の相談を多く聞きますが、今回は自分の行動が、友だちに嫌な思いをさせていないかをチェックしてみましょう。

~~~~~ こんなことしていないかな? ? ~~~~~

- 友だちのスマホを勝手に見る
- 友だちがすぐに電話に出ないと怒る
- 友だちが既読無視をしたり、すぐにメッセージを返さないと怒る
- 一日に何回も SNS のメッセージを送ったり、相手が出なくても何度も電話をかけたりする
- 友だちに、位置情報アプリを入れさせた

- 友だちが、自分以外の人や、自分が嫌いな人と仲良くしているのは嫌だ
- 友だちが他の人と遊びに行くとき怒る
- 自分と帰る(遊ぶ)ために、部活やバイトを休んでもらうことがある
- 自分を一番に優先してほしいと思う
- 自分の都合で、よく予定を変更する

- 自分の機嫌が悪いと、暴言を吐いたり、周りに八つ当たりをしたりする
- 自分の機嫌が悪いときは、友だちが話しかけてきても無視することがある
- 自分が話しかけてほしいときに話しかけてくれないと怒る
- 友だちが自分の意見に賛成してくれないと不機嫌になる
- 友だちがいやがっているのに、しつこく話しかけることがある。

- 誕生日プレゼントを、自分で高い物を指定して買ってもらう
- おごってもらうことが多い
- 借りたお金を返していない

- いきなり友だちの手をつないだり、肩や腕を組んだり、くすぐったり、抱きついたりする
- 話すときの距離が近い

- 遊びで、友だちの体や頭を、たたいたりけったりすることがある。
- 自分の荷物を、友だちに持たせることがある
- 機嫌が悪いときや、相手が悪いときに、物を投げつけることがある
- 怒ったときに、物に当たったり、壊したりすることがある。

デートDVの詳しい内容は「被害者」からの視点、友だちトラブルの詳しい内容は「自分からの視点」で書いてありますが、デートDVも友だちトラブルも、とても似ていることがわかりますね。デートDV防止講演会の感想の中にも「デートDVも普段の人間関係も同じかもしれない」という感想がいくつもありました。

- ・無意識に高圧的な態度になっているかもしれないから気をつけようと思った
- ・今日勉強したことは、友だちにもしてはいけない
- ・人との関わりの中では、お互いの同意がすごく大切
- ・友だちとの人間関係にも役立つことがわかった
- ・人を支配したりするのは良くないことで、恋愛だけではなく、人間関係は平等な立場で関係を築くことが大切
- ・相手のことを考えて自分の感情をそのままぶつけるのではなく、近すぎず遠すぎずの距離感を保ちたい
- ・自分の機嫌で相手を傷つけないように気をつけたい
- ・人と人とのよりよい関係の為にも、お互いがお互いを受け入れたり、思いやることが大切



人間関係のトラブルは、自分が被害者であることや自分が加害者であることに気がつきにくい問題ですが、特にデートDVの場合は、「殴るける」などの身体的暴力はダメなのはわかるけれど、それ以外の精神的、経済的、性的などの暴力には気がつかない人が多く、今回のアンケートでも、「DVは殴ることだけでなく、暴言を吐く・許可なく性行為をする・SNSをチェックする・束縛することなども入るということを知ることができた。自分も加害者、被害者にならないよう気をつけたい」という感想がありました。

交際相手でも友だちでも、大切なのはお互いが対等(どちらかが強かったり、上だったりしない)で、お互いを尊重する(大切にすること)です。そして相手が自分の思い通りに動かない、思い通りになってくれなくても、支配(相手を自分の思い通りにしようとする)をしようとしないことです。

もちろん、自分の思ったことをお互いと言えることが大切ですが、その時の感情のままに相手を傷つけるような言葉や言い方ではなく、「あたたかい言葉」を使う必要があります。(球技大会で勉強しましたね)また逆に、自分が嫌だと思った時には「いやなお願いを断る」ことも必要です。(PTA広報欄 12月号で嫌なお願いを断るポイントを紹介しています)



デートDV防止講演会の中では、性的同意(手をつなぐ、ハグやキス、性行為などすべての性的な行為をしたいかどうかの確認)を、紅茶を入れることに例えていましたが、相手の体に触れる時は、相手の意志を確認するようにしましょう。

デートDVと友だちトラブルは全く同じものではありませんが「友だちなら、自分を一番優先にしてくれるべき」「友だちだから、自分の気持ちを全部わかってくれて受け入れてくれるべき」「友だちだから、いつも一緒にいて当たり前」「友だちだから、電話やSNSのメッセージには、すぐに答えてくれるはず」「私のことを大切に思っているなら、自分の願い通りに行動してくれるはず」「友だちだから、私が楽しいこと(やりたいこと)は、同じように楽しい(やりたい)はず」「友だちだから、少くづい暴言を吐いたり八つ当たりをしても許してくれるはず…」そんな自分の気持ちを押し付けていることはないでしょうか。または逆に、一方的に気持ちを押し付けられていることはないでしょうか。アンケートの中にこのような感想がありました。



「相手の同意なく、相手が嫌なことをするのは暴力なのだとわかった」「相手を思いやるのが大切なのだとわかった」「自分も気がつかないうちに、加害者になるかもしれないと思った」「相手を大切にしたいと思った」

人と人とのよりよい関係を築くに、お互いが対等で、お互いを大切にすることが必要です。もし「自分はデートDVをしているかもしれない」「自分はデートDVを受けているかもしれない」「自分は友だちに嫌な思いをさせているかもしれない」「自分はいじめを受けているかもしれない」と感じたら、また「本人は気がついていないけれど、その関係はデートDVでは?」と思った周りの人も、身近な大人に相談しましょう。だれに相談していいのかわからない時には保健室に来てください。どうしたらいいかを、一緒に考えてみましょう。

